



みさかえの園だより

第 36 号

2025年(令和7年)7月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

楽しい福祉の心をもちましょう

社会福祉法人 聖家族会 理事長 西村 和子

最近総理大臣が「楽しい日本」という言葉を出しました。「楽しい日本」とは「すべての人が安心と安全を感じ、自分の夢に挑戦し、『今日より明日はよくなる』と実感できる多様な価値観を持つ一人一人が、互いに尊重し合い、自己実現を図っていきける。そうした活力ある国家」と定義しました。(引用…首相官邸HP 政治ドットコム)

のです。「幸せ」のイメージは明るく楽しいことです。

「楽しい日本」と同じように「楽しい福祉」はすべての人が安心、安全に生きていくための福祉です。福祉を利用する方も、又そこで働く方にも「今日より明日はよくなる」このことを信じて日々を過ごし、前向きな姿勢で進むように努力すること。障がいをもっている、共にいることでより心と心を通じ合い、小さなほほえみや動きの変化にも気づき、そして、同じ命を生きる尊さを感じることです。

今、私たち福祉に携わる者も「楽しい福祉」を目指さなければならぬことを感じています。福祉を考える時に暗いイメージの方もいらっしゃるでしょう。けれど福祉はみんなの幸せのためにつくられていくも

団塊世代が後期高齢者になり、生産人口は減少し、介護や福祉を必要

とする人が増加しています。どこも人手不足の中にあります。だからといって暗い日本になってはいけない。そして暗い福祉になってはいけないと思います。

世の光

「この子らを世の光に」、これは滋賀県近江学園園長故糸賀先生のお言葉です。

「この子らを世の光に」と「この子らに世の光を」の違いについて「を」と「に」が逆になれば、この子供たちは哀れみを求める可哀そうな子供になってしまいます。しかし、この子らは、みずみずしい生命にあふれ、むしろ回りの私たちに、そして世の人々に、自分の命のみずみずしさを気づかせてくれるすばらしい人格そのものであります。この子らこそ「世の光」であり、「世の光」たらしめるべく、私たちは努力しなければなりません。糸賀一雄は最後の講義で「この子らを世の光に…」の言葉と共に大きな福祉の思想を私たちに託して逝かれました。」(滋賀県HPより)

障がいをもった子供たちは真実な心の生き方をしています。だからそ

の方たちこそ輝く命をもっています。その輝きを見ることのできる世界そんな世界を築き上げていかなければならないと思います。また障がいをもっている方や介護を必要としている方たちが、輝く生き方ができるためにも福祉があり、その方たちが楽しい日々を過ごすことができたならば、社会全体も明るくなると 생각합니다。

「みさかえの園」は創立当初から聖母マリア様を母として仰ぎ、母のいつくしみの心を心とし、「心身に障がいをもっているでも大丈夫だよ、一緒に生きて行きましょう」と、一人一人に祈りの心をもって接しています。

私たちは手・足が自由に使えます。障がいをもった方のための手となり、足となりましょう。神様からいただいたものを分かち合いましょう。このように分かち合いながら利用者、職員が共に楽しい日々を送っている、それが「みさかえの園」です。みんなが「世の光」となって輝く世界でありますように。

全国施設協議会を終えて

みさかえの園 あゆみの家
事務課長 枳原亜矢子

令和7年5月22～23日の2日間、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会主催の「令和7年度全国施設協議会」が長崎市のホテルニュー長崎を会場に開催されました。

(公社)日本重症心身障害福祉協会は、重症心身障害児者の福祉の向上及びその家庭の福祉の増進に寄与することを目的に設立され、全国の重症心



開会式



協議会での討議風景

身障害児者施設を経営する108法人、139施設が会員となっていました。

今回の全国施設協議会は、1日目午前に職員の永年勤続者(10年)の表彰式、重心認定看護師の認定書授与式、定期総会が行われ、午後から協議会が開催されました。

協議会は厚労省による福祉制度に関する行政説明があり、その後シンポジウムへ移りました。シンポジウムはテーマを「重症心身障害の魅力を現場から発信する～人材確保の取り組みから～」に決定し、京都大学

総合博物館准教授塩瀬隆之先生による基調講演、5名のシンポジストによる人材確保への具体的な取り組みが紹介されました。2日目は協会が実施する各種委員会・協議会の活動報告があり閉会となりました。

今回は31年ぶりに長崎県が担当となり、2年前よりあゆみの家を中心にもつみの家、諫早療育センターの3施設が協力し開催準備を行いました。参加者総数453名、協議会終了後には3施設の施設見学をそれぞれの施設で行いましたが大きなトラブルもなく無事に協議会を終えることができました。



親睦会では変面ショーが披露されました

協議会における学びと未来

みさかえの園 あゆみの家
施設長 平松公三郎

今年の施設協議会は長崎県内3施設の担当で、全国の重症児者施設の幹部の方々にお集まりいただき、重症児者の福祉の向上及びその家庭の福祉の増進に寄与すべく協議を行いました。

特別講演では、重症児者施設は、これから時代とともに変わっていくであろうことを、人材確保をテーマとしたシンポジウムでは、各職域において打つ手はまだまだありそうだということを学ばせていただきました。

長崎は、多方面において明るい未来を切り開いてきた場所です。この2日間の協議や交流が、全国各地の重症児者施設での未来に向けての手だての一助となることを願ってやみません。

最後に協議会の準備にあたってきた県内3施設のスタッフならびに施設見学などでお世話になった職員の皆さますべてに感謝を申し上げます。

社会福祉法人とはー

人間の尊厳と共に歩む場として

みさかえの園めぐみの家

副施設長兼事務長 藤岡 康彦

私は、社会福祉

法人が運営する、

みさかえの園めぐ

みの家に副施設長

兼事務長として入

職し、3か月が経

ちました。まだま



だ学ぶことの多い日々ですが、福祉の現場に身を置くことで、これまでの価値観が静かに揺さぶられるような経験をしています。

社会福祉法人は、営利を目的とせず、地域社会の中で支援を必要とする方々の生活を支えることを目的とした法人です。特に私たちのような

障害者入所施設では、日常的に介助を必要とする利用者の方々に対し、24時間体制で支援を行っています。

職員一人ひとりが、利用者の心と身体に寄り添い、「その人らしく生きる」ことを支える姿には、深い使命感と温かなまなざしを感じます。

こうした現場に関わる中で、私

は「人の価値とは何か」という問いに、改めて向き合うようになりました。人間の尊厳とは、何かができるから認められるのではなく、たとえ言葉が話せなくても、身体が思うように動かなくても、「ただそこに生きていく」ということ自体に意味がある、という考え方です。利用者の方々の存在から、それを教えられる場面が多くあります。

また、社会福祉法人は公的機関と民間の中間に位置し、行政では対応しきれない、より個別的で繊細なニーズに応える柔軟さを持つています。制度の枠に収まりきらない支援や、家族関係、地域とのつながりにまつわる課題など、多様な問題に対し、現場レベルで工夫を凝らしながら対応できるのが、社会福祉法人の強みだと感じています。

事務長という立場では、法人の運営面にも関わっています。社会福祉法人は、税制上の優遇措置を受ける一方で、高い透明性と説明責任が求められます。限られた資源を、いかに利用者の暮らしの質向上につなげるかという視点を持ちながら、日々の運営に取り組んでいます。数字の背後には、必ず「一人ひとりの人生」

があるという意識を忘れないようにしています。

社会福祉法人は、「誰ひとり取り残さない社会」の実現を目指す存在です。そしてその理念を、日々の実践の中で最も色濃く体现しているの



が、障害者入所施設で働く職員であり、利用者の方々です。私は、この場で人と人が支え合う尊さを学びながら、福祉の本質に少しずつ近づいていければと思います。

ワークスペースあん

新年度が始まり高齢化や人手不足の波から「ワークスペースあん」にも作業依頼が相次いでおり、外部（公共施設等）や個人宅の環境整備、農福（農業と福祉）連携で新規農家との契約作業も始まっています。利用者さんの受け入れも良く参加希望者が多いです。日頃の事業所内での作業態度や作業能力が大切な要素になります。作業意欲や集中力は勿論、体力も求められますが外部では、利用者さんは一段と能力発揮され社会参加の一環として貴重な体験と捉えています。観測史上最も早い梅雨明けに伴い、更に熱中症予防に努めながら作業に取り組んでいきたいと思っています。

（サービス管理責任者：門脇直子）

トピックス① 局長の依頼を受けみさかえの青梅を道の駅で販売 → 即完売しました



トピックス② 新しい道の駅「251いいもりじゃがーロード」（諫早市飯盛町）に花苗搬入 (会員登録して会員証の発行と搬入用帽子)



トピックス③ 日帰り旅行（平戸）に新しい仲間と行きました



トピックス④ 実習生を受け入れました (利用者さんに先輩がいます)



トピックス⑤ 玉葱の選別中 (法人内・直売所・食堂・個人へ販売中)



みさかえの園のぞみの家

うれし・楽し・おいしっ!

「のぞみカフェ」オープン

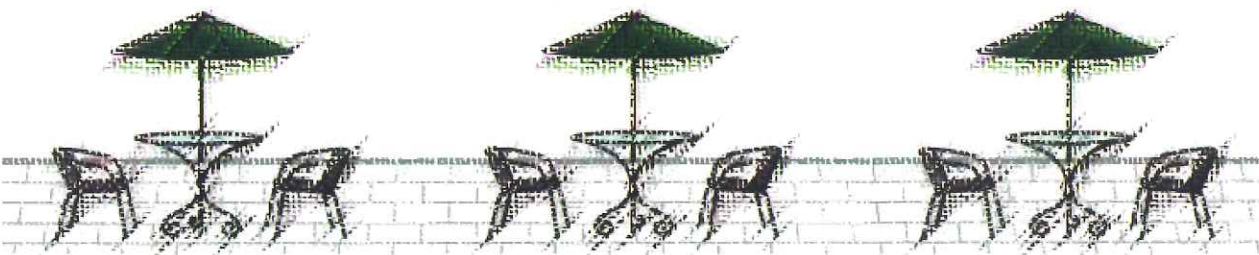


いらっしやいませ、お待ちしております。

お席の準備整っております。どうぞこちらへ!



「のぞみカフェ」の開店は年に一回
また来年来てね!!



声を「キャッチ!」



「使ってるの?」

Q: あそこ(のぞみの家のこと)は使ってないんですか?
日中時々車の出入りは見るけど、人は見ないし、
夜も真っ暗だし・・・

A: 使ってますよ!

お答えします: 正門側からは居室部分が見えないのです。廊下の長さが100m程ある奥行きの長い建物で、職員の出入りはほぼ裏門を利用。
人の姿もない、灯りもない、・・・使ってないの?と思いますよね。利用者の皆さんは64名(4/1日現在)、職員も50名以上います。



「新人です!」

通勤は愛車ケイ虎号で、毎日明るく元気にフットワーク軽く業務に励み、休日は愛妻と楽しくランチ。のぞみの家ではみ～んな頑張っています。明るく生活して行きましょう。わたしは3/1入職、よろしくお願いいたします。



ぜひ皆さんも一緒に気軽に活動に参加しませんか？

デイスペースあん

サービス管理責任者 徳久加奈美

『あんGO5部隊』の紹介

自分達の住む町を大切にしたいという思いから、デイスペースあんは、令和5年に地域もりあげ隊『あんGO5部隊』を立ち上げました。

地域の方との「交流」「お役に立

つ活動」を地域の皆さんと共に進めています。

利用者、職員も得意なことを活かし、楽しく、元気よく！

自分達だけでなく、地域を巻き込みながら、少しずつ輪が広がっています。今年度はサテライト創立十周年の記念の年です。地域の方と一緒に楽しみ企画も盛りだくさん準備中です。また、この記念イベントが地域と『つながる・重ねる・結び合う』第一歩として地域の中のあるこのあんでありたいと願っています。



いきいきサロンとの交流



保育園児との交流



車椅子ダンス



ボッチャ大会



ドローン体験

デイスペースあんに勤務して

デイスペースあん

生活支援員 山口 慶子

今年度4月から、デイスペースあんでの勤務となりました。それまでは、6年間、諫早こどもデイサービスわくわく広場で児童の療育に携わっていました。新しい環境や久しぶりの介護に不安もありましたが、それ以上に、あんでの勤務を楽しみにしていました。

むつみの家へ勤務していた頃に売店へ行くと、あんの利用者様が笑顔で挨拶してくれ、楽しそうに接客をしている姿が印象的で、これから一緒に活動できると思い、わくわくしていました。あんに勤務し、まだ売店へは行っていないのですが、商品の買い出しや、値札付け等を利用者様と一緒に取り組んでいます。値札は、売店業務をする利用者様が見えやすいように大きい字になっていたりと、付ける時に探しやすいように種類や値段別に分かれてケースに収納していたり、利用者様が働きやすい工夫がされています。

あんは、売店業務以外にもカードやポチ袋を作ったり、空き缶をリメ

イクして多肉植物を寄せ植えしたりして、販売しています。利用者様と職員が一緒に考え、取り組んでいる事にとっても魅力を感じています。

また、保育園へ行ったり、地域の集まりに参加したりと地域へ出向き、地域の人と関わりを持つことを積極的に取り組んでいます。

外出に同行した際、いつもと違う景色にキラキラした表情をして喜ばれている姿を見て私も嬉しく思いました。利用者様は、まだ行ったことのない場所、経験したことないことがあると実感しました。利用者様が施設での中だけでなく地域へ出て新しい発見や経験、人と関わることの楽しさを感じて頂けるよう、サポートしたいと思います。



「この子らを世の光に」 糸賀一雄

みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家

施設長 福田 雅文

障害福祉の父と呼ばれる糸賀一雄が生きた時代は、世界中が戦争に巻き込まれ、第一次世界大戦では4年間で軍人と一般市民をあわせて1500万人以上の死者、第二次世界大戦では推定被害者数の総計は5000万、8000万人と多くの命が奪われている。世界はこのような悲惨な戦争を二度と起こしてはならないと国際連合を発足させた。

しかし今、国際連合は十分な機能を果たせず、強大な権力と富を手に入れた指導者たちによって、まるで自分たちの行為が正義でもあるかのように、弱い立場にある市民の生活や生命を踏みにじっている。ガザ地区では民間人、難民、学校、病院なども攻撃の対象とされ、何の抵抗も出来ない赤ん坊や子どもたちに対しても、非人道的な爆撃が繰り返されている。戦時下では一人ひとりの人権や人間の尊厳を尊重する余地はない。ましてや障害のある人たちが生きる場所はない。けっして戦争だけは、どんな理由があっても避けなければならない。

今こそ、これまでの破滅的な思想を打破し、個人を尊重すること、人権を守ること、争いのない心豊かな平和な世界を実現するために、糸賀が到達した究極の福祉思想「この子らを世の光に」を社会に浸透させ、「愛と共感の世界」になることを目指したい。「社会」という集団のなかで一人ひとりの「幸福な人生」(福祉)が実現するようにマリア様と共に祈りたい。

むつみの家

ちょっとそこまで
プチ外出

むつみの家で昨年からはスタートしたプチ外出を紹介します。毎週水曜日に1時間30分で行って帰ってくる“ちょっとそこまで”のぶらり旅です。行楽に、買い物に、グルメに、年間合計24回、のべ48名の利用者様がそれぞれのプランで、小さな夢を叶えるひとときとなりました。

むつみの家に入所して約5年、大切な人工呼吸器とともにワクワク、ドキドキの初めての外出。またダイソーやコスモスで自分だけの買い物を楽しんだ方、ドリンクを味わいながらリラックスタイムを過ごした方、みんなそれぞれ、目を輝かせてリフレッシュされる機会となっています。

聖マリア修道院

小長井・高来図書館

ドラッグストア
コスモス

一葉団薬

海中鳥居

おすすめの本はどれですか？

AKICHI

ふりかけください！

ハーブ園

たらふく館

ルルド

竹崎城

ダイソー

キュンを見つけたよ

わくドキ♡はじめてのお出かけ
フルーツバス停サテライト
センター

牧の公園

山茶花高原で
まったりだけじゃダメですか？

令和6年度 決算報告

貸借対照表

令和7年3月31日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,378,517
固定資産	9,242,295
(基本財産)	4,034,028
(その他の固定資産)	5,208,267
資産の部合計	11,620,812
負債の部	
流動負債	350,387
固定負債	51,147
負債の部合計	401,534
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	100,940
その他の積立金	3,320,745
次期繰越活動増減差額	7,106,989
(うち当期活動増減差額)	68,710
純資産の部合計	11,219,278
負債及び純資産の部合計	11,620,812

事業活動計算書

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,354,185
サービス活動費用計	4,319,536
サービス活動増減差額	34,649
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	33,434
サービス活動外費用計	88
サービス活動外増減差額	33,346
経常増減差額	67,995
特別増減の部	
特別収益計	1,662
特別費用計	947
特別増減差額	715
当期活動増減差額	68,710
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	7,125,478
当期末繰越活動増減差額	7,194,189
積立金取崩額	123,400
積立金積立額	210,600
次期繰越活動増減差額	7,106,989

資金収支計算書

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,386,995
事業活動支出計	3,961,712
事業活動資金収支差額	425,283
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	1,209
施設整備等支出計	179,890
施設整備等資金収支差額	△ 178,681
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	123,400
その他の活動支出計	224,585
その他の活動資金収支差額	△ 101,185
当期資金収支差額合計	145,417
前期末支払資金残高	2,087,339
当期末支払資金残高	2,232,756

・端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和6年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分類	件数
① ケアの内容に関わる事項	2
② 個人のニーズ(嗜好・選択)に関わる事項	0
③ 環境・設備に関わる事項	0
④ 事務に関わる事項	3
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	1
⑥ その他	0
合計	6



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらのQRコードからご覧いただけます。

<https://misakae.or.jp/>